

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 22 陣の記録

大気環境改善交流 対象国：メコン 5 か国

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、メコン 5 か国（カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス）から若手公務員 27 名が 2019 年 2 月 12 日～2 月 19 日の日程で来日し、「大気環境改善交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、東京都、愛知県及び三重県を訪問しました。訪問地では、外務省及び環境省から講義の聴講、テーマ関連の視察を行いました。また、このほか歴史的建造物の視察や日本文化の体験を通じて、多角的に日本の知見を深めるとともに、参加者同士及び日本人関係者との友情を育みました。また、大気環境改善の観点を始めとした各々の関心事項や体験、日本の魅力について SNS を通じて対外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 メコン 5 か国 27 名

（内訳）カンボジア 6 名、タイ 6 名、ベトナム 5 名、ミャンマー 4 名、ラオス 6 名

【訪問地】 東京都、愛知県、三重県

2. 日程

- 2月12日（火） 来日、【オリエンテーション】
- 2月13日（水） 【テーマ関連講義の聴講・意見交換】環境省
【日本理解講義の聴講・意見交換】外務省
【文化視察】浅草寺
- 2月14日（木） 東京都から愛知県へ移動
【地域産業の視察】とよたecoful town、四日市港ポートビル
- 2月15日（金） 【テーマ関連の視察】四日市市エコパートナー企業、公益財団法人
国際環境技術移転センター、【地域概要の聴講】三重県庁
【文化視察・体験】伊賀流忍者博物館、伊賀くみひも作り
- 2月16日（土） 【テーマ関連の視察】四日市公害と環境未来館
【ワークショップ（報告会準備）】
- 2月17日（日） 愛知県から東京都へ移動、【視察】日本科学未来館
- 2月18日（月） 【テーマ関連の視察】新江東清掃工場、【成果報告会】
- 2月19日（火） 帰国

3. プログラム記録写真

	
2月12日【テーマ関連講義の聴講・意見交換】環境省	2月12日【日本理解講義の聴講・意見交換】外務省
	
2月14日【地域産業・企業視察】とよたecoful town	2月15日【テーマ関連の視察】公益財団法人国際環境技術移転センター
	
2月15日【地域概要の聴講】三重県庁	2月15日【文化視察・体験】伊賀流忍者博物館
	
2月15日【文化体験】伊賀くみひも作り	2月16日【テーマ関連の視察】四日市公害と環境未来館

	
2月18日【成果報告会】	2月18日【テーマ関連の視察】 新江東清掃工場

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ カンボジア社会人

今回のプログラムで、日本人や日本社会(文化、価値観、生活様式)、素晴らしい経済発展、技術、国の健全な環境を維持するための努力などについて学ぶことができ、大変貴重な経験になりました。外務省をはじめ日本の皆様に感謝します。最も大切なことは誠実さ、互いの尊重・敬意、友好的といった日本人の資質であり、世界の人々が学ぶべきことだと思いました。

◆ ラオス社会人

講義に関して最も有益だったことは、日本が過去に行ってきた環境への取り組みの重要性を理解し、どのように環境問題を解決してきたかについて学んだことです。最も有意義だった見学は「とよたエコフルタウン」です。日本が開発した先進技術について学び、世界にクリーンなエネルギーの使用を広めるこの施設は、とても役立つものと思います。外務省を訪問した時、日本政府のODAによるラオスの援助方法をより深く知り、現在進行中及び今後の重要なプロジェクトについても知見を深めることができました。大都市および地方都市での滞在は日本人の生活スタイルを知り、経済成長の産物を見るうえで大変良い経験になりました。

◆ ミャンマー社会人

私は、先端技術、日本人の特徴、生活水準、インフラ、サービス、廃棄物管理システム、日本政府の行政などについて多くの知識を得る機会がありました。日本についての知識を共有することで自国及び自身の仕事にとっても役立てることができるものと確信しています。このプログラムを通して学んだ廃棄物管理システムと先進技術についての知識は私にとって大変貴重なものとなりました。

◆ タイ社会人

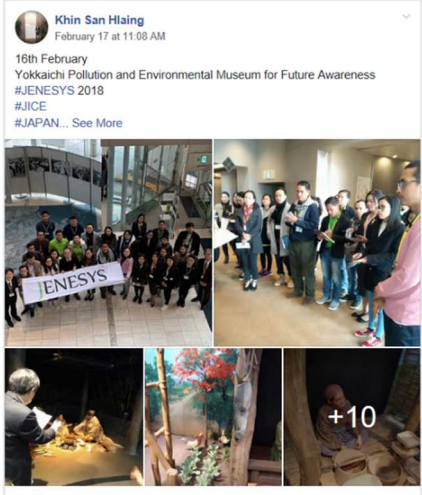
講義は、このプログラムのテーマに合致した内容で興味深く、私たちの国々で適用する上で、有益だと思いました。企業や政府機関への訪問は、世界に向けて積極的な貢献をしている経験や、技術シェアに関する興味深いトピックについて、学ぶことができました。これは日本が能力と技術の両方を持っていることによる信頼と自信の表れであると思います。

◆ ベトナム社会人

JENESYS2018 はわずか1週間の日程でしたが、多くの興味深いプログラムが組まれてい

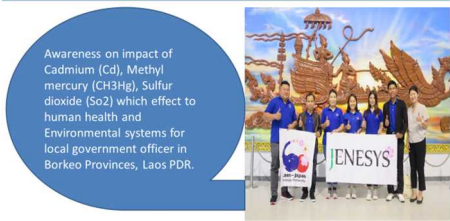
ました。丁寧な日程管理が行われたことに感銘を受けました。おかげでスムーズに行程が進みました。日本人はとても友好的で親切で、礼儀正しく温かいので日本滞在中、心が和みました。講義は大変良く準備され参加した国々にとって有益でした。講義から学んだことは、私たちの生活の質を向上させるために、特に環境負荷を減らすといった生活の仕方を変えるという視点で、これは大変貴重なものだと思います。このプログラムに参加することにより多くの興味深いことを学ぶことができました。関係者の皆様のご尽力とご親切に感謝します。

5. 参加者の対外発信

	
2月16日 四日市公害と環境未来館の視察：私達の環境を改善するために過去の経験から学びました。	2月15日 国際環境技術移転センター（ICETT）での講義では、四日市公害の歴史・状況・その克服について学びました。
	
2月14日 トヨタ ecoful town を視察しました。	2月16日 ありがとう、さようなら、三重、皆さんまた会いましょう。

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

Overview (Why) The experience and gained knowledge from JENESYS 2018 reflect the importance of environment to the well-being of the people. With inspiration of efforts that the Japanese government and people cooperated to deal with serious pollutions, the Cambodian team seeks to conduct a pilot project aimed at cleaning the Small Basak River Banks (SBRB) which has often been problem with solid waste especially on public holidays and weekends.	【カンボジア】テーマ「賢明な市民と住みよい環境」。滞在中に学んだ政府と市民の努力により深刻な公害を克服したということに触発され、ごみの放置で問題となっている「ラスク川沿いの清掃活動」を計画します。私たちが中心となり、環境省、民間企業その他、メディアや日本大使館や日本企業にも参加していただき、清掃活動を実施します。更に、小売業者、学生、民間団体に対して環境保全に関する啓蒙活動をする他、メディアを通じて環境保全の重要性を広く展開します。
Why we need to do this?	【タイ】テーマ「社会運動による地球に優しい考え方と環境意識の涵養」。このアクション・プランの目的は、関係者が協力することにより公害の拡大を食い止め、次世代に美しい環境を手渡すことです。具体的には、関連のパンフレットを用意し、記事の準備をした後、私達が日本滞在中に得た各種情報を伝達するため、政府関係者を対象に講演会などを実施します。また、環境キャンペーンや相談会を行い、広く環境意識の向上活動を展開します。
	【ベトナム】テーマ「一般廃棄物の削減キャンペーン」。一般廃棄物の不適切な処理は様々な問題をもたらしています。そのため、適切なごみの分類と 3R を通じたごみの削減を目指します。意識向上のために児童・生徒・学生に対して環境教育を、一般市民を対象に訓練を実施します。JENESYS メンバーは、子どもたちに対する環境教育も含め各自の家庭から取り組むこととします。また、有機廃棄物のコンポスト化をメンバーの所属する県で推進します。「世界を変えるには、まず自分から」というガンジーの言葉のとおり実践します。
Aims and Objectives: • To provide the awareness on the effects of plastics wastes for the Secondary Students in monastery- schools; • To reduce the increasing rate of plastic utility in Myanmar; • To maintain the clean and green environment of Myanmar.	【ミャンマー】テーマ「廃プラスチック削減のための意識向上キャンペーン」。3月にネピドーの三か所の僧院中学の生徒たちに、プラスチック廃棄物の環境に対する影響を教えること、ミャンマーにおけるプラスチック利用の増加率を減らすこと、清潔で緑豊かな環境を維持することを目的として、キャンペーンを実施します。具体的には、

	僧院中学の学生に、プラスチック廃棄物とその影響について伝え、学生やボランティア団体と一緒に近隣の清掃活動を展開します。
Project Title : 	【ラオス】テーマ「ボルケオ県の地方自治体職員を対象にカドミウム、メチル水銀、硫化硫黄の健康への影響についての意識向上運動」。ボルケオ県には近い将来、経済特区が設けられることになっていて、完成の暁には化学工場を始め様々な企業が進出することが予想されます。そのため、環境保全に関する意識向上を目的とし、ボルケオ県の自治体職員を対象に、有害化学物質が人々の健康、生活環境に与える影響について理解を促す活動を、私たち JENESYS 参加者が中心となって展開します。